

227

納本

法人團

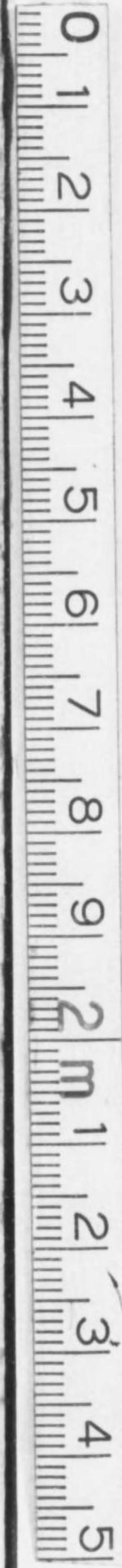
稜威會大分縣支部

日本精神と禊

特253

675

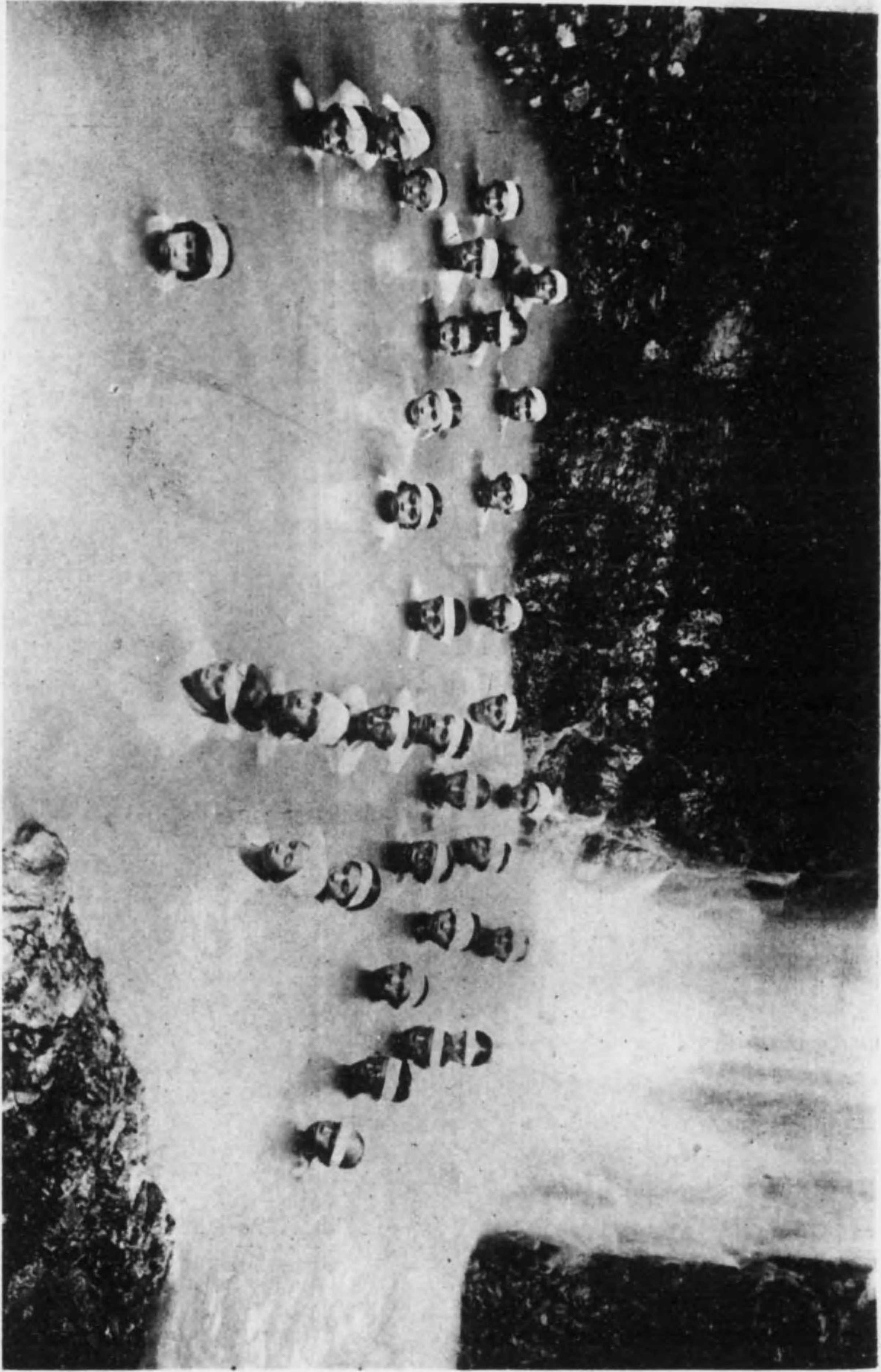
37
4



始



特 253
675



白坪町馬大宮神に於ける（昭和二十九年十月二十日）

なつて古典攷究會を設立されました所、杉浦重剛先生、八代大將、頭山翁などは非常に喜ばれて之を援助されたのであります。二十九回に互る古典の講義と之に伴ふ禊とが全國の神職の人々や、一般の人士の驚となつて、先生は福岡縣神職會を始め各所の禊に引張りの凧となりましたが其間慈惠院の軍醫總監高木兼寛博士が入會され「禊と醫學」との徹底的研究の結果「禊は衛生上効果こそ多けれ寸害なし」との折紙を附けられ、又大條ドクトルは「世界無比の妙法」と稱へられ、層一層の隆盛となつたのであります。然し好事魔多く秋山將軍、高木男爵、八代大將、杉浦先生などと相前後して川面先生も昭和四年歿せられてから、稜威會は火が消たやうになりましたが唯温容玉の如き馬場會長により今日に及び、今や更に陣容を立直し

て大獅子吼せんとしつゝあります。されど先生御在世中より何等の蓄積もなく清貧洗ふが如き會なれば、先生の逝去後は想像に余りある位にて、僅かに會長始め幹部の人達の持寄りで不足を補つて辻褄を合してゐる始末でありました。かく老松の霜雪を凌いで天颯に聳ゆるが如き清節を持する信仰團體なる事を御記憶になつて此小冊子を御一讀の程切願する次第であります。

因に社団法人稜威會本部は東京市淀橋區大久保百人町三ノ三七三で、現會長は元大審院民事部長正三位勳一等法學博士馬場愿治と申す人であります。

備て裏の心と、表の身体の健康鍛錬に就いては、古來種々の方式が行はれて居りますが、主として身體に偏し、心の方は肉體の命する儘に困苦缺乏に堪へ忍ばしてゐるやうであります。それでは婆羅門行者のやうに單に肉をさいなむのみで効果が尠くはありますまいか。人は身體の榮養物として米肉野菜等を採りますが、心には何の榮養を與へてゐるでせう。倫理道德は實踐缺ぐ可からざる物ではありますが心の糧とするに之丈では足りません。どうしても心の奥の奥の琴線に觸れる宗教即ち死後の安心立命に到達する信仰でなければ満足出来ませぬ。さらば吾々は如何なる信仰を擇ぶ可きかと言へば日本人としては、天皇陛下の日常される事に神倣ひに習つて、皇室の御祖先の神々と産土の神並に自己の先祖をお祭祀になれば結構であると存じます。

(日本精神)

野村胡堂著 精神のそとに 精神のそとに 精神のそとに

私は吾々日本人と申す言葉を使ひましたが、英、米、獨、佛、伊其他何れの國にも其國々に培かはれた精神があります。日本精神とは日本古來より神流れに流れ來つた日本固有の精神、靈氣乃至は其生命とも言ふ可き物であります。上に萬世一系の天皇を戴き、君民一體世々厥の美を濟せる事實も、忠君愛國の至誠、純情、公明、敦厚なる國民性も皆之れ日本精神、即ち普通に言ふ大和魂の顯れであります。然らば此日本精神の出發点は何處に在るかと言へば、古典に明らかなる如く、其源を宇宙精神に發し、神の意志を繼承し、包藏し來つて今日に至つてゐるのであります。今回の日支事變には爆彈三勇士、數十勇士、數百勇士が陸續と踵を接してゐる彼の偉大なる犠牲的精神も日本精神の現れの一端であります。苟くも神の意志に反し、天地の法則に叶はぬ精神は偉大なる發展を遂ぐる事は出来ません。されば比類なき我國體も矢張り此

の天地を貫ける大宇宙精神に源を發し、而も之に順應してゐる事實は萬世一系天壤無窮となつて現はれてゐるのであります。

(大宇宙)

大宇宙とは、どんな物であるかと言へば、實に宏大無邊、一秒間に三十萬哩も走る光が、一億五千萬年も經たねば光が達しないと言ふ遠い所迄も包んでゐる一大球體であります。其大宇宙に劃然として立派な統制があり、法則があり、數十億の各星が一絲亂れず運行せる神秘は、何か其中心に一種言ひ難い靈的意志を感せざるを得ないのであります。而して大宇宙に人間で言ひ議る事の出來ない或物が充實して或種の働をしてゐるのが認められます。科學者は之をエーテルと言つてゐますが最近宇宙線と名付けてゐる人もあります。此等科學者達の物質的研究の結果、原子から電子を發見して、

萬有皆電子より生じてゐると言ひ、更に進んで電子の波長關係から光子とか妙子とか言ふ物を認め、遂に進んで靈子の存在をすら信するやうになつてゐます。靈子の存在を認めた科學者は更に靈妙不可思議なる靈の存在を認めざるを得ないやうになつて來ました。かくして科學者は物質分解の結果發見する、に至つた電子を物質ではない一種の「氣」だと申してゐますから、此電子より、依り微少な靈子は矢張り微少な「氣」でなければなりません。エーテルの波動とは此の靈子の波を言つた物でありまして其根元は我古典の劈頭に示されたる天御中主太神であります。

(天御中主大神)

星も月も日もなくて天地混沌たる數十億年の昔、大宇宙の中心に立たれた天御中主太神は先づ自體より十表に向つて分靈分魂分身を分出分派分放された。此の一分靈を

生靈と申し、生靈の活動が足靈となり、玉留靈となり、高皇産靈神皇産靈神となり其産靈の作用によりて葦芽の如く萌ね騰り又大旋回せる星雲状態を呈し、遂に數百億の天常立神即ち皇辰が生じました。其一つは國常立神即ち地球でありまして、天文學者の測定する所によれば今から二十億乃至三十億年の昔だと申します。之に人類が発生したのは、二萬年の昔、或は三十萬年、或は百万年、或は千万年前と色々に言つてゐますが、我古典では地球が人類の發生に都合のよくなつた阿夜訶志古泥神の時、即ち神の御面の如く凡べての物が満ち足つて、畏み敬まはるゝやうになつてから天津神は伊邪那岐神、伊邪那美神二柱に「たゞよへる此國をうみ修め造り固め成せ」と仰せられて此地球にお降らせになりました。二柱の神は晝夜不眠不休で修理固成されて國をお拓になり、人類の祖先としての神々をお生になりました。そして最後に「禊」を

されて天照大神、月讀大神、素戔雄大神と申す三貴神をお生になり、此地球を三分し
てお治になるやうに教へられて、天津神に御報告のため此地球を神隠られました。此二
柱の神の御代は數千年或は數万年に亘り、十三代相續いたと申される人もありますが
或は左様かとも思はれます。それは兎に角、天照大神はお授けになられた豊葦原の中
國即ち我日本を統治さるゝ爲に皇孫瓊々杵尊を高天原よりお降しになり、天壤無窮と
齋穗の御神勅に三種の神器をお授けになられ、高皇産靈神は磐境神離の御神勅をお授
けになりました。

(皇室と國民)

皇孫尊は天八重雲を嚴の千別に千別て、日向國高千穗の櫛觸ヶ峰にお降りなりました。之れ日本開國の祖神で、皇室は其直系の御子孫に在らせられますから、現津神

として尊ばれる所以も亦此に在ります。而して我々の祖先を段々と辿れば氏の神を通じて天神地祇に到達し、或は源平両氏、武内、橘氏等の如く皇室に辿りつくのもあります。して見れば我々は恐れ多いが皇室を大宗家として尊び、大宗家の爲に粉骨碎身する愛國精神の發露する所以は毫も怪しむに足りません。而して此の日本精神は決して支那や印度や猶太の教や宗教から發生したのではありませぬ。何故ならば等しく天御中主太神の分身分靈たる人類國家ではありますが國が分れ、統治者が異なり久しい年月を経るに従ひ、其氣候風土の爲に氣分、氣質が變化相違して遂に最初天津神から傳へられた教訓を忘却して各自各國異なつた見方の上に立つ宗教を造り上げてゐるからであります。

或國では大宇宙神をエホバと言ひ、或國では昆留遮那、或は大日如來或は阿耨耶或は

大梵天、或國は太極、上帝或はアラ、フアラオ等言つてゐますが段々糺しますと、矢張り天御中主太神を指してゐるのであります。眞理に二つはないから其筈であります。其全貌を見て信仰するのと片鱗を見て渴仰するのはそこに大なる選庭があります。我等は天御中主太神の直系の神が天皇であり、國民又神の子孫であると悟れば釋然として我神ながらの道に歸る可きではないでせうか。こう言へば「今回の日支事變の爆彈勇士は皆神徒の人達ばかりですか、佛教徒や基督教信者の人達は交つてはゐませんか」とお問になる人もありませう。一應尤の事で言はれる通り、佛教徒や基督教徒の人達もありません。然し何が爆彈勇士たらしめたかと言へば、太古より神ながらに將た傳統的に吾等日本人の血の中に流れてゐる神の血、日本精神がさうさせたのであります。聖書や佛典の爲めではありません。佛教典や聖書が爆彈勇士たらしめ

たのであれば佛敎國、基督教國の人達が何も驚いて不思議がる必要がないではありませんか。

(維神之道)

然らば我惟神の道とはどんな物であるかと言へば、基督教の如き一神敎でもなければ支那、バビロン、埃及のやうな多神敎、又印度のやうな一神思想の汎神理想敎でもなく、天御中主太神を大宇宙神とする一神敎と、神より出でた者は總べて神であるといふ、汎神敎的全神敎であります。然し一言斷つて置きますのは天象崇拜でもなければ万有崇拜でもない、万有に神性は認めても、崇拜するは祖先であり、神として尊崇するは天神地祇と、神格を有せし人、人として神たる行爲ありし人を神として祭るのであります。それで、天皇陛下は天御中主太神の延長神で在らせられるから、天

皇の詔は神のお言葉であり、神即ち、天皇、天皇即ち神といふ信念の下に生命の在らん限り仕へ奉るのであります。之は軍人に限らず男女老幼な問はず、日本國民ならば皆等しく左様信じてゐるのであります。西洋人は「エホバ」を唯一の神と信じて他に神あるを認めぬ幹ばかりで枝のない信仰でありますから至つて排他的で寛容の徳に缺けてゐます。印度や支那は阿彌陀如來、大日如來、藥師如來、釋迦、梵天、太極上帝、玄々皇帝、曰く何々と枝ばかりで幹となるものがありません。夜半燈をかゝげて史を緋けば顯れ來る數百、數千の國々の中、祖神あり、祖國あり祖神の開發經營した國家に祖國の御子孫を元首と仰ぎ、祖國の偉業を援けた者の子孫が國民となり、且つ隆々たる國威を有する國家は日本以外には絶對にないではありませんか。而も建國以來未だ曾つて外國の侮を受けぬ金甌無缺の國體は神と、天皇陛

下の御稜威ごりょういによる事は勿論であるが、敬神崇祖を骨子こっしとする日本精神が然らしめたのであります。同じく祖國あり、祖神あり、祖神の教があつても、其教や國民性に缺陷があるため亡國の憂目うれめに遭つてゐるのが多い。印度、埃及、猶太、支那等皆それである。現今國勢伸張こくせいしんちやうせる國家には祖神や、祖神の教がないから他國の神、他國の教を輸入してゐる。故に宗教戦争の絶口間なく流血凄惨りゅうけつせいさんの限を盡してゐるではありませんか。英、獨、佛、等皆それである。加之しかつゝこの國民も系圖けいずがはつきりしてゐない。之は父母祖先を忘れて仕舞つてゐるから辿りつく所がないのであります。西洋人は無理に辿れば野蕃人やばんじんに達し、更に遡さかのぼれば猿人さるじんとなると考へるから、祖先を祭るとか、崇ぶとか言ふ事はなく、又自己本位であるから親に孝行など言ふ事は少しも考へないのが多い。支那や印度では「五十年、百年たてば靈魂は消れて仕舞ふから弔さむひをせんでも

よい」といふ、こんな父母祖先を忘れた思想でどうして神を信する事が出来ますか。

然るに我日本は父母祖先を辿れば氏の神を歴へて太神あまのみなかねの神はかみに達する、日本の神社にお祭りしてある天神地祇あまつかみくにつかみは辿り辿れば皆誰れかの先祖になります。それで神を敬ふ事は祖先を崇ぶことたごなるのであります。私共日本人は崇拜すまはひせざるを得ない祖先を有してゐる事は何といふ幸福であります。そこに神人合一しんじんごういつ、顯幽一體けんゆういつたつの尊い境致きやうちが湧き起つて来るのは無理もない事であります。

(靈魂觀)

かく吾々が祖先を崇拜するのは、祖先の靈魂を認めてゐるからである。人が死すれば肉體は崩壊ほうくわいして仕舞ふが之に宿つてゐた靈魂は決して消へもせなければ失せもしませぬ。然らば靈魂とは何ぞやと言へば。「靈」とは靈であり靈子であります。美、實、種

子、身、靈で音韻轉通すれば、ヒ、ミ、チ、マ、ヌ、シ、ニ、などとなりませす。大宇宙の大中心の御中主太神の大自然としての大旋回により其遠心力は無限の分靈を十表に分出分放分射してゐる。之が靈であり靈子であり、宇宙線であります。而して此状態を客觀的に見てミイヅ（靈出づ）と言ひヒカリ（靈駆り）とも言ふのであります。太神より出づる太神の分靈、分性、分心、分威、分力、分質なる靈子は其分相應に結合、結晶、同化して、高皇産靈神、神皇産靈神となり、其の稜威は靈駆りまして、魂子、玄子、妙子、光子、作用子、電子、原子、分子、細胞、虫、魚、鳥、獸、山河、草木、日月、星辰、人類万有となり、其の發顯活動が吾人の客觀には空間を顯し、主觀には時間を表し以つて此調和統一したる壯嚴極りなき宇宙の一大体系が展開してゐるのであります。御中主太神より出づる靈即ち靈子を祖神は生靈、足靈

玉留靈と言つてゐる。生靈とは生々發達の靈で足靈は個々充實具足の靈、玉留靈は統一主宰の靈であります。生靈とは直日、直昆、直靈、足靈とは八十直日、八十直昆、八十直靈、玉留靈とは大直日、大直昆、大直靈をさして言ふのであつて、畏くも宮中では昔の八神殿即ち今の神殿に生靈神、足靈神、玉留靈神と申してお祭りしてあります。此の生靈、足靈、玉留靈の靈を、ひきくるめて直靈と申しますが、現今の科學者は潜在意識とか、或は第六感など、申します。魂は母の胎内で父母祖先を通じて集合結成された靈の結晶體でありますから「たま」と申すのであります。靈は平等一體、普遍性で質を有してゐますが、魂は大小、長短、精粗、厚薄、差別、個性を有し量を有してゐます。前述の如く科學者は電子から靈子を認め、更に靈を認めつゝあるに一般の人々は吾々の五官に上らぬからとて古い唯物

思想に捉はれて未だに靈の存在を否定してゐる人の多いには驚くの外ありません。吾々の目や鼻などの五官に上らぬ電流、空氣、水蒸氣は皆實質體を有してゐるに、之れが見へない吾々の五官程頼りない物はありますまい。現今心理科學研究の團體は全世界に大小二千餘個所を數ふるでせうが、各所で人靈の寫眞は元より、パワタの如き下等動物の死の瞬間に脱出しつつある靈魂の状態を十數枚も寫眞に收めてゐます。和蘭のマルタ博士や、ハーヴアド大學のマクドウガル博士などは種々實驗の結果死の刹那の體重を測定して二・〇乃至二・五オンス減すると發表してゐます。此減じた體重は何を物語つてゐるのでせう。さて魂とは和身魂、荒身魂、奇身魂、幸身魂、真身魂等を總稱した物で、和身魂と言ふのは普通に言ふ「心」で心理學のいふ意識でありますし、奇身魂は「知識」で其分魂は智力、幸身魂は即ち感情で其分魂は情、力、真身魂は意志で

其分魂は意力であります。人に依て感情の強い人意志の弱い人、物覺のよい人、悪い人、神經質とか、膽汁質とか、浮性、冷性、熱性など種々千差萬別なのは皆各魂の相違に依るのであります。之等靈魂の宿つてゐる肉體を荒身魂と申します。然し此肉體である荒身靈にも澤山の靈があります。普通外感覺(視、聽、嗅、味、觸)内感覺(筋關節、有機、運動)と申しますが皆夫れ々靈が獨立して其大小強弱等により又個性の一部を形作つてゐます。彼れが喰ひたい、彼れが飲みたい、彼れが着たい、よい香がする、關節が痛む、胃が痛い、など言ふのは、心とか智、情、意の作用とは異なつた荒身魂の作用であります。直靈の脱出は人の死となりますが其の脱出した直靈は暫時此世界に留まつた後、又元の天御中主太神の許に還るのが原則となつてゐますけれども數多い直靈の中には其儘此世界に留まつたり、又再び人體に再生するのこともあります

和身靈は肉體を離れて靈殿(又佛壇)に鎮まりて子孫を守り、監督し、荒身靈は肉體と共に墓地に宿るのであります。奇身靈、幸身靈、真身靈の中には直靈の後を追つて行くのもありますけれども多くは此世界に止つて和身靈と一語に居たり、荒身靈と同居したり、或は両者の連絡をとつたりして、其家其の子孫を守つてくれます。此等奇、幸、真、荒等各魂の淨化統一せるは直靈の後を慕ふて大宇宙の大中心たる瑞の大天照宮に歸り、太神に還元歸一しますが、之は少數の靈魂で、自殺他殺を問はず、不自然なる死者の靈魂は淨化するを得ずして、人を怨み世を恨んで、魔の踏切とか、魔のトネルとか、魔の海峡とか言ふ名を立て、次々と弱い靈魂の持主を誘ひつゝあるのを見たり、聞いたりします。されば子孫としては祖先の業績を敬慕すると共に、自ら起つて真心より之を慰め、之を祀りて、靈の向上を圖りつゝ、祖先の生前冒せる天ツ罪

國ツ罪あらば夫れを神に謝して、顯幽兩界の明朗化に努めねばなりません。幽界の祖靈にして過去の罪穢のため、近代心靈家達のいふ「地縛の靈」となつてゐたら、假令祝詞、教典を百万遍繰り返へして其淨化成佛を希ふても更に其効はありますまい。茲に子孫の者が代つて神に謝罪し、且靈の向上を祈念する必要が生ずるのであります。地縛の靈とは、國家社會の爲に死せる人々を除ける他に憤死、怨死、慘死、或は不慮の死を遂げて執着の甚しき者、或は生前の惡徳惡業の爲め幽界にて苦しめる靈を指して言ふのであります。

(稜威會に就いて)

以上「大宇宙」と「大宇宙より發源せる日本精神」「天津神直系の皇室の尊嚴さ」と「神國と神國民たる所以」「靈魂とは如何なる物か」に就いて、極めて簡單にアウトライン丈説

明しましたが、之に依つて祖神祖靈をお祭りになる事はお分りになつたと思ひます。夫れで前述の宇宙觀、靈魂觀を私共に教へてくれた、近代神道、神靈界の大偉人川面凡兒先生と、其稜威會の事を簡短に述べさして貰ひます。川面先生は大分縣宇佐の方で既に物故されましたが、「日本古來の神道は實に世界的の大宗教であつて、將來は全世界の人々悉く之れに歸向すべき性質の物で、大日本首唱の世界教である」とて、日露戦争直後の明治三十九年十一月稜威會を設立されて一大宣言書を發表されました。宣言書は教典第六卷の卷末に附してありますから就いて御覽を願ひます。

此の稜威會と言ふのは儒佛渡來前の古神道を稱道し、祖神の垂示（古事記、日本書紀、祝詞、物語、舊事記、特に禊祓）に基ける敬神崇祖の信仰を發揮し、天祖、皇祖、列皇の宏謨を奉體し、國民道德を振興し奉公、盡忠の靈魂氣概を涵養訓練し修理

固成護國濟民の實を擧げんとするのであります。實行の一として年一回か二回、五日乃至七日の間、海か川かに「禊」して靈肉の鍛鍊、精神の修養を圖るのであります。勿論十三派神道などは全然別個の純神道で各人直に産土神を祀り、天照大神を祀り、天御中主太神を祀るのであります。今や星移り、年變りて、禊の遺物として行水や入浴を好む民俗性は残つてゐるが、河海に禊する事は之を厭ふ人が多いやうであります。會員必ずしも皆禊をせなければならぬと言ふ規定もなく、又禊せなくとも日本精神は涵養されますが、今回の日支事變を契機として國民精神總動員強調の折柄、我々大和民族は皇祖皇宗の大神靈を認めて、國體の淵源する所を究め、我國が眞に神國たる所以を解し、以つて惟神の大道より發せる皇室中心主義の堅き信念に立脚し、君民一致一大鐵丸となつて進まねばなりません。それには徒に喋々議論する時代ではなく

る本性に立還らしめ、人としての神となり、神としての入たる境致に至らしめんとす
 るには並大低の事ではありません。此天津罪や國津罪、禍津毘などから胃されたのは
 書物や、學問や、教典、聖書、加持、祈禱乃至醫藥では解消されないから、どうして
 も神に接觸し、神の稜威によりて罪穢を祓ひ清めて戴くより外に方法がありません。
 毎年六月と十二月の晦日に畏くも 天皇陛下御親ら大祓の大神儀を擧げさせられて
 居られる事は御承知でせうが此れが、世界人類國家國民萬有萬靈の爲に行はれる尊ひ
 大御心の現れとしての御神儀である事迄は御承知でないかも知れぬ。而して此大祓の
 御神儀の裏は申す迄もなく、大祓の大神儀が伴なつてゐまして 皇祖皇宗を始奉り、
 天照太神、天御中主太神、八百万の天神、地祇を奉齋されて、現津神たる 陛下が其
 大稜威に浴さるのであります。夫れ程此祓の御神儀は深玄幽遠な御儀式でござ

いまして我等臣民も之れに神倣ひに倣つて祓を致すのであります。

元來祓と祓とは表裏一體、顯幽一貫の淨化行事でありまして、祓其物にも表と裏の二
 様の意義を有してゐます。表の意は罪穢を「拂ひ清める」のであるが、裏に自己の靈を
 擴張擴充する「張る靈」の意味が藏されてゐます。表に心身の罪と穢とを拂ひ、裏
 に直靈の擴大擴充を圖る、表裏合體した稱を「禊」と言ふのであります。裏の「張
 る靈」はどうして擴大擴充するかと言へば「禊」に依つて神の稜威を己が直靈に注
 ぎ入れ、張り充たし張り實らすのであります。今迄流つても拭つても取り去る事の出
 來なかつた罪や穢の禍津毘を「そぎ削り」、「そぎ落す」のであります。即ち表は「靈
 注ぎ」裏に「身削ぐ」のであります。

禊は夏は瀧、冬は海、春と秋とは川で致します。其行事として振魂と言ふのを致します。御魂振りとも言つて精神内部の妄想雑念を拂ひ、直霊の活動を促し全身の浄化、調和、統一、融和を圖る神秘幽玄な神事であります。其源は遠く古典にある天太玉命の「太魂」や、舊事記にある振魂命の「振魂」並に十種の神寶の御神勅にある「布瑠部由良由良」の「布瑠の靈魂」、饒速日命、宇麻志甘遲命等の鎮魂等から發してゐるのであります。全身の靈魂を總動員させて其の反射的孤立的たりし活動を制御し、自己の根本精神を中心としたる全身の統一的活動をなしつゝ、動中に靜を求むること恰も獨樂の最大能力を發揮して廻轉する時の如く澄み渡つた心境となつて神人合一感應道交の境致に進むのであります。

此外天鳥船運動と言つて、昔神々が鳥船に乗つて天翔り國驅りされた神事に倣つた極めて雄大崇高、神秘幽玄な稽を漕ぐが如き神化運動や、又神我一體の眞我となる秘法の「雄健、雄詰」「伊吹、伊吸」とて古來斯道の人々に秘中の秘事された腹式深呼吸を致します。

私共佐伯、白杵では年一回乃至二回の「禊」は別として毎月一回、一日丈の禊を勵行してゐます。それも朝一回の潜水拜神に止めてゐますけれど、頗る効果を齎してゐる様です。佐伯では昭和十年八月から毎月飲がさす今日に及んでゐますが（二十九回）白杵から参加者が多くなつたので、本年九月より第一日曜を佐伯、第二日曜を白杵と別個に致す事にしました。佐伯の方は毎月二十名乃至二十四五名位ですが、白杵は四十名内外にて將來益々増加の様であります。其状況の概略を申せば、午前五時から

六時頃迄の間に始禊祭を行ひ、直に潜水、或は潜海とて首以下の全身を水に浸つて振魂をなしつゝ、大祓戸大神を唱へて、大祓戸大神より祓つて戴くと共に、吾れ自らも祓戸神の境致に達し、且つ自己の靈に神の稜威を注ぎ入れて載るので、時間は夏で十分冬で二、三分位であります。道彦の合圖によつて水中より上りて天鳥船運動、雄健雄詰、伊吹、伊吸の神事を行ひ、豫め準備せる拜神所に於て約二時間位の拜神を致しますが、此内五十分位宛二回に分けて祓と禊の行事を致します。祓の行事の約半分は教典の拜誦残り半分は大祓戸大神の振魂で祓の行事が終れば禊の行事に移りまして教典の拜誦約二十五分、天御中主太神の振魂約三十分位、次で教育勸語の奉讀と默想振魂五分間位致します。以上教典の拜誦と振魂とを「拜神」と申すのでありまして、残れる十分位は鳥船運動、雄健雄詰、伊吹伊吸等を致します。行事が終つた後臼杵では約四

十分位川面先生の御遺著を主とせる古典の講義研究を致してゐます。

毎月一回の禊と、毎朝の水浴勵行により身體健康、元氣充足、全身爽快となり、神に接近するため敬神崇祖の念彌が上に昂上し、夏冬通じて恒例行事とせるため克己の精神を奮起し、今回の如き國民精神總動員には圖らずも先驅をなしてゐる事は神ながらとは言へ欣懷に堪へない次第であります。臚を得て燭を望むの類かは知りませぬが此小冊子が契機となつて國民精神修養の一法として「禊」をさるゝ人の多からん事を切望して止まない次第であります。

終

